

日本地衣学会

No.188

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会務報告	753
日本地衣学会第24回観察会（長野県小諸懐古園・湯の丸高原, 2025年10月18日～19日）報告／綿貫 攻, 木下 靖浩	753
日本地衣学会第24回観察会（長野県小諸懐古園・湯の丸高原, 2025年10月18日～19日）で観察された地衣類／木下 靖浩, 綿貫 攻, 坂田 歩美, 原田 浩	759
看板に着く地衣類. 第24回観察会から／原田 浩	763
日本地衣学会評議員会（2025年11月22日, 九州医療科学大学, 延岡市）議事録／坂田 歩美	764
日本地衣学会第24回大会総会（九州医療科学大学, 延岡市, 2025 年11月22日）報告／坂田 歩美	768
日本地衣学会第24回大会（九州医療科学大学, 延岡市, 2025年 11月22日～23日）報告／甲斐 久博	768
第46回青空地衣教室（宮崎県高千穂峡, 2025年11月24日）報告 ／田中 慶太	772
日本地衣学会第24回大会および第46回青空地衣教室に参加して ／前崎 一姫	774
第46回青空地衣教室に参加して／中山 虎汰郎	774
お知らせ	775
ニュースレター編集委員会からのお知らせ／坂東 誠	775

会務報告 *Reports of the JSL Activities*

日本地衣学会第 24 回観察会（長野県小諸懐古園・湯の丸高原, 2025 年 10 月 18 日～19 日）報告

*Report of the 24th JSL Field Meeting at Komoro-Kaiko-en, Komoro-shi and Yunomaru Highland,
Toumi-shi, Nagano-ken, Central Japan, 18–19, October 2025 / by WATANUKI Osamu and
KINOSHITA Yasuhiro*

>>>>> 綿貫 攻：地域活性化委員会 関東、千葉県立中央博物館市民研究員
木下 靖浩：地域活性化委員会 関東、千葉県立中央博物館市民研究員

標記観察会が以下のとおり開催されましたので、報
告します。

開催日：2025 年 10 月 18 日（土）～10 月 19 日
(日)

開催場所：長野県小諸市小諸懐古園および東御（とうみ）市湯の丸高原

講師：原田 浩・坂田 歩美両氏（千葉県立中央博物館）

参加者：12名（講師含む）

同行者：1日目2名、2日目6名（いずれも筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所のナチュラリスト）

* * *

日本地衣学会主催の第24回観察会が、小諸城の跡地である小諸懐古園（図1A）と浅間山の西側に位置する湯の丸高原（図1B）で開催された。

今回の観察会は2018年の黒髪山・竜門峡周辺（佐賀県）以来である。2019年には今回の2日目と同じ湯の丸を中心とした観察会が計画されたが、約1週間に現地を大形の台風が襲い、宿泊を予定していた旅館が被害に遭い道路も通行止めとなつたため、中止せざるを得なかった。翌年、同じ場所での開催を試みたがCOVID-19の流行で断念し、その後、対面での総会は再開されたものの観察会は行われていない。今年1月に青空地衣教室が久しぶりに開催されたのを機に、観察会も復活させたいという会長の要望により、今回の計画となった。

初日の観察地である小諸懐古園は千曲川の右岸（北西側）の河岸段丘上（標高約660m）に位置する。小諸城の跡地に明治神宮の森や日比谷公園等の植栽設計も手掛けた本多静六により、大正15年（1926年）に近代的な公園としてつくりなされた。豊臣秀吉の時代に当時の大名仙石秀久が三層の天守閣を造営、現在では当時築かれた天守台に「野面積み（のづらづみ）」の石垣だけが残っている。この石垣は「コケの石垣」として知られており、蘚苔類に混じり大形の葉状地衣も多く生育している。

午後1時に懐古園駐車場脇のSL前に集合した。この



図1. 観察地。
A, 小諸懐古園. B, 湯の丸高原. (地理院地図の白地図に県名等を追記)

日は学会員に加え、開催準備に協力頂いた筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所からボランティアのナチュラリスト2名が特別に同行し、14名での観察となった。

まず三の門料金所を入ってすぐ右側にある二の丸跡の石垣（図2A）で原田先生を講師に観察を開始（図3）。ハクテンゴケをはじめとしたウメノキゴケ科の大形地衣に混じりやや小形のクロウラムカデゴケなどのムカデゴケ科地衣やウメノキゴケ科のコナウチキウメノキゴケが生育している。目をこらすとシアノバクテリアを共生藻とするため暗色で目立たないチヂレアオキノリやトゲカワホリゴケ、鱗片状のロウソクゴケなども見つかった（ここだけで30分以上を費やした）。

次に南丸跡の石垣（図2B）へ。先ほどが南向きだったのに対し、こちらは西向きあるいは北向きとなるためか、葉状地衣に混じりイワカラタチゴケ（図4）やヒメレンゲゴケなどのハナゴケ属といった樹状地衣が目立ち始める。南丸跡北側の石垣にはチヂレツメゴケ

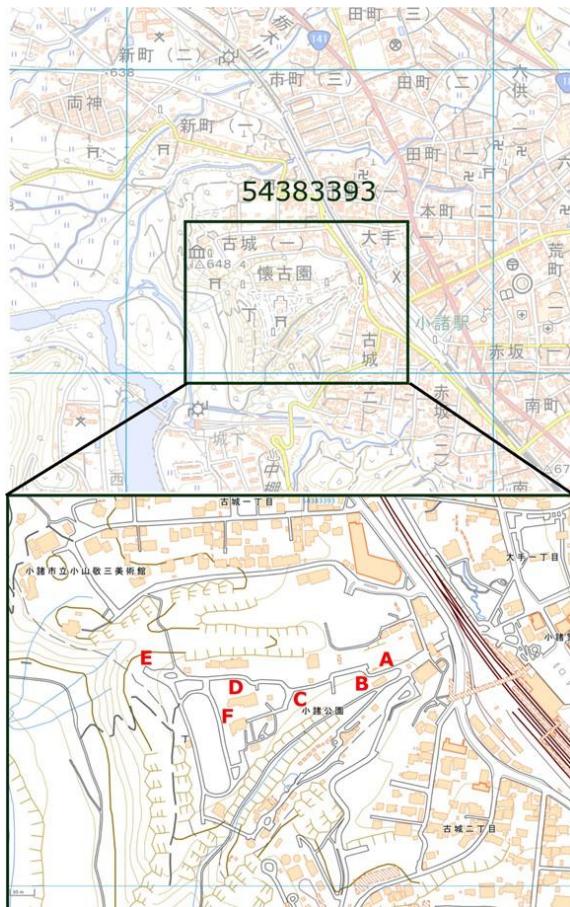


図 2. 小諸懷古園内観察地点.

A, 二の丸跡. B, 南丸跡. C, 黒門橋. D, 天守台北. E, 水の手展望台. F, 天守台西. (地理院地図の標準地図に地域メッシュを示した地図をもとに3次メッシュ境界線, 3次メッシュコード, 拡大範囲, 観察地点等を追記)

(図5)が見られ, 講師からは「ツメゴケ属の同定には腹面(地衣体の裏側)にある脈の特徴が重要」との説明があった。

懷古園内では石垣上の地衣類が主な対象となったが, 黒門橋手前(図2C)でカエデの樹幹上のモジゴケ属やマルゴケ属, オリーブトリハダゴケ(?)といった瘤状地衣を観察した。サクラの樹幹上にはウメノキゴケ科のトゲハクテンゴケ, キウメノキゴケ, ハイイロウメノキゴケ属(シラチャウメノキゴケかタナカウメノキゴケ: 形態では分類できず, 化学成分の分析が必要

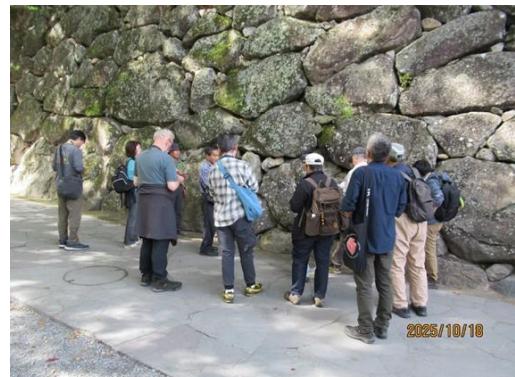


図 3. 二の丸跡の石垣で講師の説明を聴く参加者.



図 4. イワカラタチゴケ(2023年3月撮影).



図 5. チヂレツメゴケ(2023年3月撮影).

との説明)がみられた。またマツゲゴケとオオマツゲゴケが隣あって着生しており両者の見分け方(前者が粉芽塊をつける裂片が伸びて立ち上がるのに対して,

後者は広い裂片に点々と粉芽塊をつける)について説明をうけた。

天守台北側(図2D)はまさに「コケの石垣」で、蘚苔類に混じってチヂレツメゴケが群生している。アカミゴケがその名の通りきれいな赤い子器をついているのも印象的。ハナゴケ属の基本葉体に寄生し枯らしてしまうという変わった生態をもつヤドリキッコウゴケやミドリゴケ属が見つかった。

水の手展望台(図2E)(屋根に葉状や樹状の地衣が着生していたが、高くて観察できなかった)で千曲川を望んだ帰りに、橋の手すり上でコナクロボシゴケやムカデコゴケといった小形の葉状地衣が着生しているのを観察した。

天守台西側の石垣(図2F)にはキクバゴケ属(これも同定には化学成分の分析が必要)が多くみられた。

懐古神社の境内を通り、出発地点の三の門に戻り初日は解散となった(午後4時半)。その後、学会員は徒歩で宿泊先である「旅籠つるやホテル」に移動した。

つるやホテルは小諸の市街地、北国街道に面した「創業1682年の歴史のある旅籠」。窓からのぞくと近所の民家の屋根にキクバゴケ属の地衣がびっしり繁茂していた(図6)。各自部屋で休憩した後、宿に併設されたお食事処「山里亭割烹つるや」で懇親会を行った。宿泊参加者10名に地元からの通い参加者2名も加わり、旧交を温め合ったり学会に新規入会された方と情報交換したりするなど、和気藹々とした時間を過ごすことができた。

2日目は8時に宿の駐車場に集合し、自家用車3台に分乗して出発。途中のコンビニエンスストアで昼食を調達し観察地を目指す。湯の丸高原は、長野県東御市と群馬県吾妻郡嬬恋村にまたがる標高1800~2000mの高原地帯。上信越高原国立公園に属し、湯ノ丸山の東側、浅間連峰の西側に位置する。



図6. 宿舎の窓から民家の屋根を望む。
キクバゴケ類がびっしり。

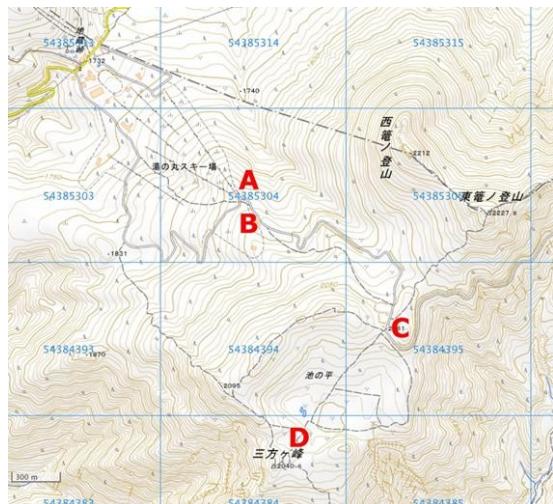


図7. 湯の丸高原における観察場所。
A, 湯の丸スキー場第3リフト終点. B, 池の平駐車場への登山道. C, 池の平駐車場周辺. D, 三方ヶ峰への登山道。(地理院地図の標準地図に地域メッシュを示した地図に観察地点を追記)

長野県東御市と群馬県嬬恋村の境界にあたる地蔵峠は標高1732m。ここで菅平高原実験所のナチュラリスト(本日は4名が新たに加わり計6名)と落ち合い、自家用車5台で最初の観察地である湯の丸スキー場第3リフト終点(標高約1900m、図7A)に向かう。スキー場を運営する湯の丸観光開発株式会社のご好意で特別に車をおかせて頂く。

計画では少し離れた登山道入り口から観察開始の予



図 8. 砂利敷の小石上に生育するコナボウズゴケ。



図 10. 採集したサンプルを広げ比較観察。



図 9. ヤマヒコノリ（2019年6月撮影）。



図 11. カラマツ林内で講師の説明を聴く参加者。

定であったが、車を降りた途端にリフト降り場近くの砂利敷の小石上に生育するキゴケ属のコナボウズゴケ（図8）から講師の原田先生の説明が始まった。カラマツやヤマザクラの樹幹には多くの地衣類が着生している。樹状地衣ではヤマヒコノリ（図9）、ホネキノリ、5種類のハリガネキノリ属など、葉状地衣ではカラクサゴケが多く見られ、他に同じカラクサゴケ属のモンシロゴケモドキやヒゲアワビゴケ、オーアケシゴケモドキ、ウスバトコブシゴケ、ウチキアワビゴケ、フクロゴケ属3種など20種近い地衣類が出現した。これらの中にはよく似た種も多く、参加者は採集したサンプルを比較しながらルーペで特徴を観察していた（図10）。

リフト終点で1時間15分ほど観察した後、池の平

駐車場への登山道に入る（図7B、図11）。ここはカラマツ林内で、樹幹からナガサルオガセが垂れ下がり、ハリガネキノリ属で珍しいオニノヒゲがまとまって着生していた。これで日本産ハリガネキノリ属全8種（原田他 2012）のうち、オオオニノヒゲとツヤハリガネキノリを除く6種が出現したことになる。他にもウスカワゴケやヒメリボンゴケモドキなどリフト終点ではみられなかった地衣を観察した。倒木や地面にはコアカミゴケ、テガタアカミゴケ、ウロコハナゴケといったハナゴケ属が、倒木にはウツメゴケがみられた。また、岩上にはカムリゴケとヒメカムリゴケが生育していた。1時間強の観察（といってもおそらく数百mしか進んでいないが）後、リフト終点に戻り車に分乗して池の平駐車場へむかった。

池の平駐車場で各自昼食を摂ったのち、12時45分から午後の観察に入る予定だったが変更し、2班に分かれて観察することとした。一班は引き続き原田先生を講師に駐車場周辺の地衣類観察、別班は坂田先生を講師に三方ヶ峰へ向かう。

原田先生を講師とする班は駐車場周辺（標高約2060m、図7C）の樹幹に着生する地衣類を観察した。それらのほとんどが午前中に観察した種類の復習だったが、初出の大型葉状地衣類としてセンシゴケを観察した。また、周辺の岩の表面にアカセンニンゴケの見事な群落やハイイロキゴケを観察することができた。さらに、登山道脇のロープにつくキツネゴケの鱗葉や、看板につくトラベリオプシス フレクスオーサを発見した。

坂田先生を講師とする班は池の平湿原（標高約2000m）を横切り「忠治の隠岩」に向かう。途中、湿原内の比較的盛り上がり乾燥した場所にはワラハナゴケの仲間（ワラハナゴケまたはワラハナゴケモドキ：成分が異なる）が生育していた。

三方ヶ峰（標高2040.6m）への登山道沿い（図7D）には大きな露岩が点在している。岩上の多少土壌が堆積しているところにはジョウゴゴケ類がみられ、岩壁には瘤状で地衣体が黄色のチズゴケ属の一種や、タカネゴケ属の一種が生育しており、ちょっとした高山の様相を呈している。灌木の枝にはコナハイマツゴケ（図12）がみられた。

三方ヶ峰へ至る途中の砂礫地の手前に高山帯の地上を思わせる地衣類が生育している場所がある（図13）。比較的開けた立地にワラハナゴケの仲間、エイランタイの仲間、タカネアカミゴケ（？）などがみられ、2004年にフロラ調査を行った本白根山山頂付近（現在は噴火活動のため入山できない）を思い出した。天気が悪く展望が望めず、時間も迫っているのでここで引き返



図12. コナハイマツゴケ（2019年6月撮影）。



図13. 三方ヶ峰に至る登山道脇にみられる地衣群落。



図14. 集合写真。

すこととした。

池の平駐車場で合流し、参加者全員で集合写真（図14）を撮影して14時半頃に現地解散となった。

今回は久しぶりの観察会で準備期間も短かったため、何かと不手際や度重なる予定変更があったが、参加した皆さまのご協力もあり、無事に終えることができた。原田先生には2日間にわたり講師を務めて下さり、坂田先生には急な依頼にもかかわらず2日目午後の解説を快諾頂いた。開催準備では筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所の出川先生、松崎さんに情報を提供して頂いた。今回参加されたナチュラリストの中には

入会を希望されている方もいらっしゃるそうなので、さらなる地衣類の輪が広がることを期待する。中部森林管理局東信森林管理署、小諸市懐古園事務所、湯の丸観光開発株式会社の方々には採集許可等でお世話になつた。参加して下さった皆さま含め感謝申し上げる。

* * *

引用文献

原田 浩・王 立松・吉村 康. 2012. 日本地衣類誌（2）ハリガネキノリ属 *Bryoria* (ウメノキゴケ科). *Lichenology* 10: 147-168.

日本地衣学会第24回観察会（長野県小諸懐古園・湯の丸高原、2025年10月18日～19日）で観察された地衣類

Lichens Observed during the 24th JSL Field Meeting at Komoro-Kaiko-en, Komoro-shi and Yunomaru Highland, Toumi-shi, Nagano-ken, Central Japan, 18–19, October 2025 / by KINOSHITA Yasuhiro, WATANUKI Osamu, SAKATA Ayumi and HARADA Hiroshi

>>>>> 木下 靖浩：地域活性化委員会 関東、千葉県立中央博物館市民研究員

綿貫 攻：地域活性化委員会 関東、千葉県立中央博物館市民研究員

坂田 歩美：千葉県立中央博物館

原田 浩：千葉県立中央博物館

日本地衣学会第24回観察会にて観察された地衣類のリストを以下に示す。

場所：長野県小諸市小諸懐古園および長野県東御市
湯の丸高原

観察日：2025年10月18日～19日

* * *

観察された地衣類

このリストでは、出現した地衣類を観察地ごと、学名のアルファベット順に配列した（学名の著者名は初出時のみ示した）。湯の丸高原については「湯の丸スキー場第3リフト終点および池の平駐車場への登山道」「池の平駐車場周辺」「三方ヶ峰への登山道」の3地

点に分けた（地点の詳細については「日本地衣学会第24回観察会（長野県小諸懐古園・湯の丸高原、2025年10月18日～19日）報告」参照）。なお、小諸懐古園では証拠標本は採集しておらず現地での同定に基づく。湯の丸高原については標本に基づいたリストを作成予定であり、本報告は仮リストとなる。

(1) 小諸懐古園（2025年10月18日）

Anaptychia isidiata Tomin トゲヒメゲジゲ

シゴケ

Aspicilia sp. クボミゴケ属の一種

Caloplaca s.lat. sp. ダイダイゴケの仲間

Candelaria concolor (Dicks.) Stein ロウソ

クゴケ	コナウチキウメノキゴケ
<i>Canoparmelia aptata</i> (Kremp.) Elix & Hale or <i>C. texana</i> (Tuck.) Elix & Hale シラチ ヤウメノキゴケあるいはタナカウメノキゴケ	<i>Myelochroa leucotyliza</i> (Nyl.) Elix & Hale ヒ カゲウチキウメノキゴケ
<i>Chrysothrix candelaris</i> (L.) J.R.Laundon コ ガネゴケ	<i>Nephroma helveticum</i> Ach. f. <i>caespitosum</i> Asah. チヂレウラミゴケ
<i>Cladonia caespiticia</i> (Pers.) Flörke ドテハナ ゴケ	<i>Peltigera praetextata</i> (Flörke ex Sommerf.) Zopf チヂレツメゴケ
<i>Cladonia humilis</i> (With.) J.R.Laundon ヒメ ジョウゴゴケ	<i>Pertusaria flavicans</i> Lamy モエギトリハダ ゴケ
<i>Cladonia pleurota</i> (Flörke) Schaer. アカミ ゴケ	<i>Pertusaria pustulata</i> (Ach.) Duby ? オリ ーブトリハダゴケ?
<i>Cladonia rei</i> Schaer. ヒメレンゲゴケ	<i>Pertusaria</i> sp. トリハダゴケ属の一種
<i>Cladonia scabriuscula</i> (Delise ex Duby) Nyl. ササクレマタゴケ	<i>Phaeophyscia limbata</i> (Poelt) Kashiw. クロ ウラムカデゴケ
<i>Collema subflaccidum</i> Degel. トゲカワホリ ゴケ	<i>Phaeophyscia rubropulchra</i> (Degel.) Essl. コナアカハラムカデゴケ
<i>Diploschistes muscorum</i> (Scop.) R.Sant. subsp. <i>muscorum</i> ヤドリキッコウゴケ	<i>Physciella melanachra</i> (Hue) Essl. ムカデコ ゴケ
<i>Diploschistes</i> sp. キッコウゴケ属の一種	<i>Porina</i> sp. 1 マルゴケ属の一種
<i>Endocarpon</i> sp. ミドリゴケ属の一種	<i>Porina</i> sp. 2 マルゴケ属の一種
<i>Flavoparmelia caperata</i> (L.) Hale キウメノ キゴケ	<i>Porpidia albocaerulescens</i> (Wulff) Hertel & Knoph ヘリトリゴケ
<i>Graphis handelii</i> Zahlbr. ? ニセモジゴケ?	<i>Psilolechia lucida</i> (Ach.) M.Choisy コナゴケ
<i>Heterodermia microphylla</i> (Kurok.) Skorepa チヂレウラジロゲジゲジゴケ	<i>Punctelia borreri</i> (Sm.) Krog ハクテンゴケ
<i>Heterodermia obscurata</i> (Nyl.) Trevis. キウ ラゲジゲジゴケ	<i>Punctelia rudecta</i> (Ach.) Krog トゲハクテ ンゴケ
<i>Lecanora</i> sp. チャシブゴケ属の一種	<i>Pyxine sorediata</i> (Ach.) Mont. コナクロボシ ゴケ
<i>Lepraria</i> spp. レプラゴケの仲間（複数種）	<i>Ramalina yasudae</i> Räsänen イワカラタチ ゴケ
<i>Leptogium azureum</i> (Sw.) Mont. アオキノ リ	<i>Rimelia clavulifera</i> (Räsänen) Kurok. マツ ゲゴケ
<i>Leptogium cyanescens</i> (Ach.) Körb. チヂ レアオキノリ	<i>Rimelia reticulata</i> (Taylor) Hale & Fletcher オオマツゲゴケ
<i>Myelochroa aurulenta</i> (Tuck.) Elix & Hale	<i>Stereocaulon japonicum</i> Th.Fr. ヤマトキゴ

ケ

Stereocaulon pileatum Asah. コナボウズゴ

ケ

Xanthoparmelia sp. キクバゴケ属の一種

(2) 湯の丸高原 (2025年10月19日) 仮リスト

1) 湯の丸スキー場第3リフト終点および池の平駐

車場への登山道

Alectoria lata (Taylor) Linds. ホネキノリ

Bryoria bicolor (Ehrh.) Brodo & D.Hawksw.

オニノヒゲ

Bryoria furcellata (Fr.) Brodo & D.Hawksw.

コフキイバラキノリ

Bryoria lactinea (Nyl.) Brodo & D.Hawksw.

フジキノリ

Bryoria nadvornikiana (Gyeln.) Brodo &

D.Hawksw. コフキハリガネキノリ

Bryoria smithii (DR.) Brodo & D.Hawksw.

コフキオニノヒゲ

Bryoria trichodes (Michx.) Brodo & D.

Hawksw. ハリガネキノリ

Cladonia arbuscula (Wallr.) Hale & W.L.Cubl.

ワラハナゴケあるいはワラハナゴケモドキ

Cladonia digitata Schaer. テガタアカミゴケ

Cladonia macilenta Hoffm. コアカミゴケ

Cladonia squamosa (Scop.) Hoffm. ウロコ

ハナゴケ

Evernia esorediosa (Müll.Arg.) Du Rietz ヤ

マヒコノリ

Hypogymnia nikkoensis (Zahlbr.) Rass. ニ

ッコウフクロゴケ

Hypogymnia physodes (L.) Nyl. フクロゴケ

Hypogymnia pseudophysodes (Asah.)

Kurok. フクロゴケモドキ

Hypogymnia pulverata (Nyl.) Elix ヒメリボ

ンゴケモドキ

Hypogymnia vittata (Ach.) Parrique ヒメリ

ボンゴケ

Imshaugia aleurites (Ach.) S.L.F.Mey. ゴヘ

イゴケ

Melanelia olivacea (L.) Essl. [*M. huei* (Asah.)

Essl. ?] オリーブゴケ (オリーブゴケモドキの可能性を完全には否定できない)

Mycoblastus sanguinarius (L.) Norman ク

ロアカゴケモドキ

Nephromopsis ornata (Müll.Arg.) Hue ウチ

キアワビゴケ

Parmelia fertilis Müll.Arg. トゲナシカラクサ

ゴケ

Parmelia marmoriza Nyl. モンシロゴケモド

キ

Parmelia squarrosa Hale カラクサゴケ

Peltigera degenii (Gyeln.) Inumaru ウツツメ

ゴケ

Pilophorus clavatus Th.Fr. カムリゴケ

Pilophorus curtulus Kurok. & Shibuichi ヒ

メカムリゴケ

Platismatia interrupta W.L.Cubl. & C.F.Cubl.

ウスバトコブシゴケ

Stereocaulon pileatum Asah. コナボウズゴ

ケ

Tuckermannopsis americana (Spreng.)

Hale ヒゲアワビゴケ

Tuckermannopsis gilva (Asah.) M.J.Lai オ

ーアケシゴケモドキ

Tuckneraria pseudocomplicata (Asah.)

Randlane & Saag ウスカワゴケ

Usnea longissima Ach. ナガサルオガセ

2) 池の平駐車場周辺

Alectoria lata ホネキノリ

Baeomyces rufus (Huds.) Rebent. アカセン

ニンゴケ

Bryoria bicolor オニノヒゲ

Bryoria furcellata コフキイバラキノリ

Bryoria trichodes ハリガネキノリ

Cladonia macilenta コアカミゴケ

Cladonia ochrochlora Flörke キツネゴケ

Cladonia pleurota (Flörke) Schaer. アカミ
ゴケ

Evernia esorediosa ヤマヒコノリ

Hypogymnia nikkoensis ニッコウフクロゴケ

Hypogymnia pseudophysodes フクロゴケ
モドキ

Imshaugia aleurites ゴヘイゴケ

Menegazzia terebrata (Hoffm.) A.Massal.
センシゴケ

Mycoblastus sanguinarius クロアカゴケモ
ドキ

Parmelia squarrosa カラクサゴケ

Pertusaria commutata Müll.Arg. or *P.*
multipuncta (Turner) Nyl. ヒメトリハダ
ゴケあるいはオオカノコゴケ

Pertusaria variolina Nyl. コナトリハダゴケ

Pilophorus clavatus カムリゴケ

Platismatia interrupta ウスバトコブシゴケ

Stereocaulon spp. キゴケ属（複数種）

Stereocaulon vesuvianum Pers. ハイイロ
キゴケ

Trapeliopsis flexuosa (Fr.) Coppins & P.

James トラペリオブシス フレクスオーサ

Tuckermannopsis americana ヒゲアワビゴ
ケ

Tuckermannopsis gilva オーアケシゴケモド
キ

3) 三方ヶ峰への登山道

Cetraria islandica subsp. *orientalis* (Asah.)

Kärnefelt エイランタイ

Cetraria laevigata Rassad. マキバエイラン
タイ

Cladonia alpina (Asah.) Yoshim. ? タカネ
アカミゴケ?

Cladonia arbuscula ワラハナゴケあるいはワ
ラハナゴケモドキ

Cladonia chlorophaeae-complex ジョウゴゴ
ケ類

Cladonia pleurota アカミゴケ

Cladonia rangiferina (L.) F.H.Wigg. ハナゴケ

Cladonia sp. ヒメレンゲゴケ類似種（粉芽）

Melanelia sp. タカネゴケ属の一種

Rhizocarpon sp. チズゴケ属の一種

Stereocaulon pileatum コナボウズゴケ

Vulpicida pinastri (Scop.) J.-E.Mattson &
M.J.Lai コナハイマツゴケ

看板に着く地衣類. 第 24 回観察会から

Lichens growing on a Signboard, found during the 24th Field Meeting in Nagano / by HARADA Hiroshi
>>>>> 原田 浩 : 千葉県立中央博物館

第 24 回観察会の 2 日目は、長野県東御市の地蔵峠から東に上った、標高 1900m を超える地点だった。

最初はスキーリフト終点付近で、カラマツ林の林縁からカラマツ林内を少し歩いた狭い範囲内で観察を行い、様々な地衣類を観察できたのは、別途の報告（木下他 2025, 綿貫・木下 2025）の通りである。昼近くになつたので、昼食をとるため、池の平の駐車場付近を目指し移動しようという時だった。世話人の綿貫さんの車に乗せてもらうため、最後の出発となつことから、観察会の始めの頃に既に目を付けていた、地衣類が着いていそうな看板を見る時間を得た。そこで、全

体の写真を撮り（図 1A），さらに間近で写真を撮ることができた（図 1B）。

青い「ゲ」の文字の上に子器を多数つけている葉状地衣は、*Hypogymnia nikkoensis* (Zahlbr.) Rass. ニッコウフクロゴケのようである（図 1C）。現場では十分に観察する時間は無かつたが、写真を拡大してみたところ、更に 2 種を確認した。「ゲ」の左上の同属の個体は、*H. pseudophysodes* (Asah.) Kurok. フクロゴケモドキで（図 1D），こちらは多数の個体を確認した。もう 1 種は、*Parmelia squarrosa* Hale カラクサゴケである。いずれの葉状地衣も、周りにある力



図 1. 看板に着く葉状地衣。

A, 地衣類が着く道路脇の看板。B, 看板の 2 行目、「ゲ」の文字付近；矢印が示す c と d の拡大写真を、C, D それぞれに示す。C, 子器を多数つけた *Hypogymnia nikkoensis* ニッコウフクロゴケ。D, 地衣体中央部の背面がくずれる *Hypogymnia pseudophysodes* フクロゴケモドキ。

ラマツの樹皮上での生育を確認していた。

* * *

基物の看板はおそらくアルミ製で、白いペンキを塗ったように見え、青い文字は薄い材質で、貼り付けられているように見えた。ガードレール上の地衣類については、私が千葉県や奥日光から本誌上に報告するなどしているが、これによく似た状況と言えるだろう。古くなった塗装面は、地衣類の恰好の生育基物になっているようである。

このときは参加者にこのことを知らせる時間がなかったので、ここで共有させていただくこととした。

引用文献

- 木下靖浩・綿貫攻・坂田歩美・原田浩. 2026. 日本地衣学会第 24 回観察会（長野県小諸市懐古園・湯の丸高原, 2025 年 10 月 18 日～19 日）で観察された地衣類. 日本地衣学会ニュースレター(188): 759-762.
- 綿貫攻・木下靖浩. 2026. 日本地衣学会第 24 回観察会（長野県小諸市懐古園・湯の丸高原, 2025 年 10 月 18 日～19 日）報告. 日本地衣学会ニュースレター(188): 753-759.

日本地衣学会評議員会（2025 年 11 月 22 日、九州医療科学大学、延岡市）議事録

Report of the JSL Councilors' Meeting at Kyushu University of Medical Science, Nobeoka, 22 Nov. 2025 / by SAKATA Ayumi

>>>>> 坂田 歩美 : 2024～2025 年度庶務幹事

開催日：2025（令和 7）年 11 月 22 日（土）

開催地：九州医療科学大学

参加者（敬称略）：（議長）坂東誠、（評議員）甲斐久博、河崎衣美（委任状）、木下靖浩、小峰正史（委任状）、中島裕之、（会長）木下薰、（庶務幹事）坂田歩美、（会計幹事）小杉真貴子、（地域活性化委員長）川又明徳、（ホームページ運営委員長）原光二郎、（日本地衣類誌編纂委員長）原田浩、（次期庶務幹事）川上寛子

* * *

2025 年 11 月 22 日（土）に開催された評議員会で審議した今年度の事業途中報告（+決算途中報告）及び次年度の事業計画（+予算案）と審議事項 5 題が以下の通り承認されました。

I. 2025 年度事業途中報告

1. 会員数は、2025 年 11 月 10 日時点で 169 名
2 団体（一般 106, 学生 20, 海外一般 25, 海

外学生 8, 団体 2, 名誉 10）で前年度末より 3 名増加した。

2. 以下の報告が承認された。

（1）主催大会、観察会

①日本地衣学会第 24 回大会：甲斐久博氏（九州医療科学大学）を大会委員長として、九州医療科学大学（宮崎県延岡市）にて 2025 年 11 月 22 日（土）～11 月 23 日（日）に開催された（参加者 21 名、講演等：一般講演 11 題、ミニシンポジウム 3 題、総会終了後、かわまち交流館で懇親会を開催）。

②第 24 回学会主催観察会：2025 年 10 月 18 日（土）～10 月 19 日（日）に長野県小諸市小諸懐古園および東御市湯の丸高原で開催された。

（2）総会

日本地衣学会 2025 年度総会を 2025 年 5 月 10 日（土）にオンライン形式で開催し、2025

年3月3日～12日、4月26日～5月9日に開催された評議員会（メール会議）と5月10日に開催された評議員会での報告事項、審議事項、承認事項について報告した。更に、今年度は2回目となる総会を11月22日（土）に対面形式で開催し、2025年6月24日～7月8日に開催された評議員会（メール会議）と11月22日に開催された評議員会での報告事項、審議事項、承認事項について報告した。

（3）学会誌等の発行

- ①学会誌 *Lichenology* : 第24巻1号（2025年5月31日発行）、2号（11月30日発行）。
- ②日本地衣学会ニュースレター : 182号（2025年2月4日）、183号（2月21日）、184号（4月4日）、185号（6月12日）、186号（6月20日）、187号（9月25日）を発行、それぞれ学会ウェブサイトで公開。

（4）委員会の活動

①地域活性化委員会

- ・第44回青空地衣教室を2025年2月24日（月・祝）午後に昭和の森（千葉市）で実施した。
- ・第45回青空地衣教室を2025年5月18日（日）に銚子市海岸（千葉県銚子市）で実施した。
- ・第46回青空地衣教室を2025年11月24日（月・祝）に高千穂峡（宮崎県高千穂町）で実施する。
- ・第16回秋田ワークショップ（秋田県立大学）は検討したが、実施しなかった。

②学術交流委員会

- ・自然史学会連合 : 2025年6月15日（日），総会開催。坂田歩美氏が出席。今年度分の年会費は支払い済み。
- ・日本分類学会連合 : 2025年1月11日（土），

総会とシンポジウム開催。小杉真貴子氏と坂田歩美氏が出席。今年度分の年会費は支払い済み。

- ・日本菌学会 : 2025年5月17日（土）～5月18日（日）に第69回大会を千葉大学で開催（前日の16日（金）は米国菌学会・韓国菌学会との国際合同シンポジウムを開催）。また、2025年9月27日（土）～28日（日）に菌類観察会（静岡フォーレ）が静岡県で開催された。
- ・その他 : 日本植物学会についての対応は今年度から小杉真貴子氏に対応をしていただく。

③ホームページ運営委員会 : 引き続き、学会誌・ニュースレターなどの過去および未掲載の情報を掲載し、常に最新情報を提供できるように努める。また、サーバーのプログラムのバージョンアップを行い、セキュリティの強化を図る。

④国際学会対応委員会 : 担当者を検討中。

⑤日本地衣類誌編纂委員会 : 図鑑改定の一環として「日本地衣類誌」等の *Lichenology* への掲載を進めていく。千葉県立中央博物館のデジタルミュージアムのコンテンツ「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」、「地衣成分」等、並びに学会ウェブサイト内の「日本産地衣類のDNAバーコーディングのためのデータベース」の充実を図っていく。チェックリスト（第2版）の準備作業を進める。これらを推進するため委員会メンバーの見直しを行った。

（5）次期会長及び評議員選挙

①会長選挙結果の報告

「役員等の選出についての細則」に基づき、佐々木寛朗選挙管理委員長のもと行われた。会長候補者（2025年8月29日推薦締切）は、評議員会からの被推薦者中島裕之氏（久留米高専）1人で、信任投票（9月26日締切）を行った。

9月27日、開票作業を行い、得票数の集計が厳正に行われ、中嶋裕之氏が次期会長に選出された。

②次期役員指名の報告

中嶋裕之次期会長により、次期役員が下記のように指名された（敬称略）。

庶務幹事：川上寛子

会計幹事：小杉真貴子

編集委員長：綿貫攻

③評議員選挙について

国内在住通常会員（次期役員を除く）を対象とし、選挙（2025年11月18日締切）を行った。

11月19日、開票作業を行い、得票数の集計が厳正に行われ、得票数の上位5名（得票数が同じ場合は入会年月日の古い者を優先）が候補者となった。候補者の承諾が得られた場合、次の5名が次期評議員となる。今後、次期評議員の互選により、新議長と追加評議員、監事が決まる予定である。

新評議員候補者（敬称略）

原光二郎：10票

坂田歩美：10票

中島啓光：6票

川又明徳：5票

甲斐久博：5票

II. 2025年度決算途中報告

報告は承認された。

III. 入・退会承認

入会および退会者について承認された。

IV. 2026年度事業計画

1. 主催大会、観察会

（1）日本地衣学会第25回大会：木下薰氏（明治薬科大学）を大会委員長として、2026年11月頃に明治薬科大学（東京都千代田区紀尾井町あるいは

は清瀬市）で開催予定。

（2）第25回学会主催観察会：開催場所及び日程については未定。

2. 印刷物発行

（1）学会誌 *Lichenology*：第25巻1号（2026年5月頃発行予定）、2号（2026年11月頃発行予定）。

（2）日本地衣学会ニュースレター：学会ウェブサイトで逐次公開を予定。

3. 委員会

（1）地域活性化委員会

- 第47回青空地衣教室：2026年3月29日（日）に千葉県鴨川市の清和県民の森で開催予定。
- 第48回青空地衣教室：2026年5月10日（日）に千葉県千葉市の泉谷公園で開催予定。

（2）学術交流委員会

- 自然史学会連合：2026年6月頃開催の総会に坂田歩美氏が出席予定。
- 日本分類学会連合：2026年1月頃開催予定の総会とシンポジウムに中嶋裕之会長・坂田歩美氏が出席予定。
- 日本菌学会：未定。
- 日本植物学会：2026年9月4日（金）～6日（日）に第90回大会を東京理科大学野田キャンパスで開催予定。

（3）ホームページ運営委員会：引き続き、学会誌・ニュースレターなどの過去および未掲載の情報を掲載し、常に最新情報を提供できるように努める。また、サーバーのプログラムのバージョンアップを行い、セキュリティの強化を図る。

（4）国際学会対応委員会：担当者を検討中。

（5）日本地衣類誌編纂委員会：図鑑改定の一環として「日本地衣類誌」等の *Lichenology* への掲載

を進めていく。千葉県立中央博物館のデジタルミュージアムのコンテンツ「日本の地衣類（ウェブ図鑑）」、「地衣成分」等、並びに学会ウェブサイト内の「日本産地衣類のDNAバーコーディングのためのデータベース」の充実を図っていく。チェックリスト（第2版）の準備作業を進める。これらを推進するため委員会メンバーの見直しを行う。

V. 2026年度予算案

本予算案は承認された。

VI. 審議事項

議題1) 公益財団法人発酵研究所 2027年度学会・

研究部会助成の申請

議題2) 出口博則氏の有功会員就任

議題3) 年会費の値上げ

議題4) 著者抄録のAIでの学習に利用する等の利用

範囲の拡大許諾

議題5) 学会として著作権に関する規定の整備

各議題の審議結果は以下のとおり。

議題1) 公益財団法人発酵研究所 2027年度学会・

研究部会助成の申請

橋本陽氏を委員長として、原光二郎氏、坂田歩美氏をメンバーとする担当委員会を設け、来年度の申請を目指すことが、議決権を有する審議参加者7名中7名の賛成（2名は委任状により議長に一任）を以って承認された。

議題2) 出口博則氏の有功会員就任

出口博則氏の有功会員就任を2016年に遡って認めることが、議決権を有する審議参加者7名中4名の賛成を以って承認された。

議題3) 年会費の値上げ

会員の整理をした上で、年会費の値上げを検討する方針であることについて、これを認めることができ、議決権を有する審議参加者7名中7名の賛成（2名は委任状により議長に一任）を以って承認された。

議題4) 著者抄録のAIでの学習に利用する等の利用範囲の拡大許諾

著者抄録のAIでの学習に利用について日本著者権協会に委託することが、議決権を有する審議参加者7名中7名の賛成（2名は委任状により議長に一任）を以って承認された。

議題5) 学会として著作権に関する規定の整備

学会として著作権に関する規定を整備することが、議決権を有する審議参加者7名中7名の賛成（2名は委任状により議長に一任）を以って承認された。

VII. その他

・投稿連絡票の様式変更

Lichenologyへ投稿する際に付ける投稿連絡票の様式を変更した（注：変更した様式では自筆の署名が必要となった）。

変更した様式は以下のURLよりダウンロードできる。

<https://www/lichenology-jp.org/ja/lichenology/instruction>

・年会費支払い状況のお知らせ

会員の皆様に年会費の支払い状況をLichenologyの最新号と共に送り、未払いがある方に年会費の支払いをお願いした。

日本地衣学会第 24 回大会総会（九州医療科学大学，延岡市，2025 年 11 月 22 日） 報告

Report of the General Meeting at 24th Annual Meeting of the JSI (Kyushu University of Medical Science, Nobeoka, 22 Nov. 2025) / by SAKATA Ayumi

>>>>> 坂田 歩美：2024～2025 年度庶務幹事

日本地衣学会第 24 回大会総会を 2025（令和 7）年 11 月 22 日（土），九州医療科学大学にて開催いたしました。坂田歩美庶務幹事が当日を含め今年度中に開催された 5 回の評議員会での報告事項，審議事項，

承認事項などについて報告いたしました。

皆様のご協力を得まして，滞りなく総会を終了することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

日本地衣学会第 24 回大会（九州医療科学大学，延岡市，2025 年 11 月 22 日～23 日）報告

Report of the JSI 24th Annual Meeting at Kyushu University of Medical Science, Nobeoka, 22-23 Nov. 2025 / by KAI Hisahiro

>>>>> 甲斐 久博：第 24 回大会実行委員長，
九州医療科学大学 薬学部 薬学科 教授

日本地衣学会第 24 回大会が 2025 年 11 月 22 日，
23 日の 2 日間に渡り，九州医療科学大学にて開催さ
れましたので報告致します。

* * *

日時：2025 年 11 月 22 日（土），23 日（日）

場所：宮崎県延岡市 九州医療科学大学，1 号棟 1 階 講
義室 4

参加者：20 名（一般会員 13 名，学生会員 4 名，一
般非会員 1 名，学生非会員 0 名，招待講演者 0
名，運営補助 2 名）

大会準備・実行委員長：甲斐 久博（九州医療科学大学
薬学部 薬学科 衛生薬学講座 教授）

* * *

日程（敬称略）

11 月 22 日（土）

14:00-14:05 開会のあいさつ Opening

Remarks

14:05-14:35 一般講演 Oral Presentation [座
長：中島裕之]

[1] 14:05-14:20 ウメノキゴケ科地衣類抽出物
がネコブセンチュウのレタス感染に及ぼす影
響

岡雄二¹，岩堀英晶²，木下薰³（¹Gilat
Research Center, ²龍谷大学, ³明治薬科
大学）

[2] 14:20-14:35 ヒト黒色腫 HMV-II 細胞およ
びマウス黒色腫 B16 細胞を用いた地衣類の美
白活性評価

山本美桜¹，佐々木寛朗²，木下薰²，坂田歩
美³，原田浩³，甲斐久博¹（¹九州医療科学
大学, ²明治薬科大学, ³千葉県立中央博物館）

14:35-14:50 休憩 Coffee break

14:50-16:30 ミニシンポジウム Mini Symposium 「日本産地衣類の総合的なデータベースの整備、現状と課題」 [座長：甲斐久博]
[M1] 14:50-15:20 日本産地衣類の総合的なデータベース。一分類（画像等）データベースを中心として—
原田浩（千葉県立中央博物館）
[M2] 15:20-15:50 日本産地衣類の LC-MS/MS による成分分析
木下薰（明治薬科大学）
[M3] 15:50-16:20 日本産地衣類の DNA 情報の現状
原光二郎（秋田県立大学）
16:20-16:30 総合討論 General Discussion
17:15-19:15 懇親会 Banquet（かわまち交流館）
11月23日（日）
9:05-9:50 一般講演 Oral Presentation [座長：坂東誠]
[3] 9:05-9:20 栃木県奥鬼怒で得られた地衣類数種について
原田浩、坂田歩美（千葉県立中央博物館）
[4] 9:20-9:35 伊豆諸島の大型地衣類相について
坂田歩美（千葉県立中央博物館）
[5] 9:35-9:50 長崎県におけるサンゴヒメイワノリ *Lempholemma tanakae* の分布と生態
田中慶太（長崎県西海市立西海中学校）
9:50-10:05 休憩 Coffee break
10:05-10:50 一般講演 Oral Presentation [座長：小杉真貴子]
[6] 10:05-10:20 京都市から採集された「半」地衣類 *Absconditella sphagnorum* について

森山貴登¹, 遠藤千晴², 井鷺裕司¹, 田中千尋^{1,3} (¹ 京都大学農学研究科, ² 京都大学理学研究科, ³ 京都大学地球環境学堂)
[7] 10:20-10:35 マドリード 規約 (Madrid code) 変更点の要点と DNA タイプの最近動向
橋本陽、大熊盛也（理化学研究所バイオリソース研究センター微生物材料開発室）
[8] 10:35-10:50 南極産地衣 *Umbilicaria aprina* の耐凍性関連遺伝子発現解析
中山虎汰郎¹, 吉田真人², 森田歩³, 清水侑樹⁴, 古賀大晴⁵, 伊村智⁶, 中嵩裕之⁷ (¹ 久留米高専専攻科, ² 筑波大学生物学類, ³(株) 東洋新葉, ⁴ 九州大システム生命科学府, ⁵ 九州大 工学府, ⁶ 国立極地研 総合研究大学院大学, ⁷ 久留米高専生物応用化学科)
10:50-11:05 休憩 Coffee break
11:05-11:50 一般講演 Oral Presentation [座長：木下靖浩]
[9] 11:05-11:20 トレブクシア藻綱における遠赤色光利用型光合成の潜在性
小杉真貴子、亀井保博、皆川純（基礎生物学研究所）
[10] 11:20-11:35 LC-MS/MS による地衣成分のフラグメントイオン解析と分類への応用
佐々木寛朗¹, 坂田歩美², 原田浩², 木下薰¹ (¹ 明治薬科大学, ² 千葉県立中央博物館)
[11] 11:35-11:50 地衣成分に基づく宮崎県産地衣類の学名同定
前崎一姫¹, 黒木秀一², 山本好和³, 甲斐久博¹ (¹ 九州医療科学大学, ² 宮崎県立博物館, ³ 大阪市立自然史博物館外来研究員)
11:50-12:10 総合討論・表彰式・閉会のあいさつ

General Discussion • Awarding Ceremony •

Closing Remarks

* * *

第24回大会は、コロナ禍後としては昨年度に続く3回目のオンライン開催となりました。学生が研究成果をまとめやすい時期や、観察会の実施しやすさについては昨年度の評議員会でも議論され、その結果、今年度も11月開催となりました。また、本大会前に総会も実施しました。

大会1日目には、「日本産地衣類の総合的なデータベースの整備、現状と課題」をテーマとしたミニシンポジウムを開催しました。冒頭では、千葉県立中央博物館の原田さんよりシンポジウムの趣旨説明および分類・画像を中心としたデータベースの現状についてご講演いただきました。続いて、明治薬科大学の木下さんより日本産地衣類のLC-MS/MSを用いた成分分析、秋田県立大学の原さんよりDNA情報の現状について、それぞれ専門的な観点からご紹介いただきました（図1）。



図1. ミニシンポジウム総合討論の様子。

一般講演は2日間で11演題が発表されました。1日目には、地衣類の生物活性に関する2演題が報告されました（図2）。2日目は、序盤3演題が日本各地に分布する地衣類の調査、中盤3演題が分類学・生態

学的手法による研究、終盤3演題が光合成および地衣成分に関する研究と、多彩な内容が発表されました。また今回の発表で学生会員の中山さん、森山さんが学生発表B賞を受賞され、表彰式にて木下会長より賞状と副賞が授与されました（図3）。木下会長からは今後も継続して研究成果を発表していただきたいと励ましをいただきました。全ての発表要旨は、今後『Lichenology』誌に掲載される予定です。



図2. 一般講演の様子。



図3. 学生発表賞B賞受賞の中山虎汰郎さん（左）と森山貴登さん（右）、木下薰会長（中央）とともに。

1日目の大会終了後に催された懇親会では、「鮎やな」で供される延岡名物の塩鮎・味噌鮎を味わっていただきました。一般的な魚とは異なる鮎特有の食べ方



図 4. 懇親会の乾杯挨拶の様子。



図 5. 懇親会締めの挨拶の様子。

に、驚かれた参加者も多かったようです。懇親会は、甲斐大会運営委員長の乾杯挨拶で始まり（図 4），締めくくりとして中島次期会長よりご挨拶をいただきました（図 5）。

なお、本大会では九州医療科学大学薬学部薬学科 5 年生 3 名に運営補助を担当していただきました。公共交通の利便性が低いこと、さらに休日で学内の売店が

休業していたこともあり、弁当手配などを含め、学生の皆さんには多大なご協力をいただきました。また、参加者の皆さんのご協力により、大会運営を円滑に進めることができました。ここに改めて厚く御礼申し上げます。

大会の収支は表 1 のとおりです。余剰金は来年度大会準備委員の佐々木先生に引き継がれます。

表 1. 大会の収支。

収入				支出					
種別	項目	徴収額（円）	人数	小計（円）	種別	項目	単価（円）		
大会運営費	一般会員	3,000	13	39,000	大会運営費	学生バイト代	8,000		
	学生会員	1,000	4	4,000		大会要旨集等印刷代	一式		
	一般非会員	7,000	1	7,000		茶菓子代	一式		
	学生非会員	3,000	0	0					
	招待講演者	0	0	0					
	運営補助	0	2	0					
	前年度繰越	2,069		2,069					
合計				52,069	合計				51,214
懇親会費	一般	6,000	12	72,000	懇親会費				83,900
	学生	1,000	3	3,000					
	招待講演者	0	0	0					
	前年度繰越	9,983		9,983					
	合計		15	84,983					83,900
総計				137,052	合計				135,114
次年度繰越（明治薬大）								1,938	

第 46 回青空地衣教室（宮崎県高千穂峡、2025 年 11 月 24 日）報告

Report of the 46th Outdoor School on Lichens at Takachiho Gorge, Miyazaki-ken, Japan (24 Nov. 2025) / by TANAKA Keita

>>>>> 田中 慶太：地域活性化委員会 九州

日本地衣学会第 24 回大会の関連イベントとして、以下の通り第 46 回青空地衣教室を開催しましたので報告します。

日時：2025 年 11 月 24 日（月・振替休日）9 時
30 分～12 時

場所：高千穂峡（宮崎県西臼杵郡高千穂町）

講師：原田浩先生（千葉県立中央博物館）

参加者：14 名（講師を含む）

* * *

高千穂峡（図 1）は、宮崎・大分の両県にまたがり、数多くの美しい渓谷からなる祖母傾（そぼかたむき）国定公園の一部です。この渓谷美は、阿蘇山の火山活動で噴出した火碎流を五ヶ瀬川が侵食したことによってつくられたもので、高さ 80～100m の断崖が約 7 km に渡って続きます。今回の青空地衣教室で歩いた遊歩道は、阿蘇火碎流による堆積物の中を歩くようにつくられており、その下層は渓谷を作り出している柱状節理が見られるような地形となっています。植生はスダジイを中心とした照葉樹林が広がっています。現地は、大会が行われた九州医療科学大学や延岡市街からも車で 1 時間程度と近く、時季的にも恰好の環境の中で地衣の観察を行うことができました。

青空地衣教室の当日、私たちは高千穂峡第 3 駐車場に 9 時半に集合し、原田先生の解説を聞きながら観察を始めました。はじめに目に入ってきた地衣は、遊歩道入口から降りるところに設置してあった鉄製の手すりに着生していた地衣です。ワタヘリゴケ・ダイダイサラゴケ・ウスチャサラゴケなどが見つかりました。小さな地衣を原田先生から教えていただきながら、あ



図 1. 高千穂峡.

っという間に時間が過ぎていきます。若い学生さん達がルーペをのぞき込みながら、歓喜の声を上げているのを聞き、私自身も昔地衣を初めて見たときの気持ちがよみがえってきました。進んでいくと、今度は工事の際に使うプラスチック製の方向指示板についたツツジノチャサジゴケ（？）が見つかりました（図 2）。変わった形をした下向きのキャンピリディアが確認できました。ガードレール上には生葉上によく見られるケマルゴケが見つかりました。人工物から多くの地衣が観察できることが驚きです。車道脇の石垣には、子器ありのコバノアオキノリや、黒色に見えるアオジロアナイボゴケが見つかりました。原田先生によると

アオジロアナイボゴケは日陰に多く、そこではやや青白く、河川の水没するところまで広く見られる地衣だそうです。参加者全員でルーペを用いて、それらの地衣を熱心に観察しました（図3）。さらに進んでいくと、ややうす暗い箇所の樹幹にゴフンゴケが見つかりました。岩上にはバラゴケが、樹幹にはツブイボゴケが見つかりました（図4）。バラゴケは1年で子器が枯れることを教えていただき、地衣が持つ多様性を感じた次第です。ツブイボゴケは子器辺縁部が非連続的になるのが特徴の地衣で、私も長崎市や対馬市で見かけたことがありますので、九州らしい地衣だったのでないでしょうか。

鬼八の力石などが見られるエリアでは、ヒメジョウゴゴケやハコネイボゴケと思われる地衣が見つかりました。観光客が多く、手すりから出てじっくり岩上の地衣を見るのが難しかったのがちょっと残念でしたが、仕方ないことだったと思います。ここまで時間を随分と掛けながら（ある意味いつも通り？）滝見台まで進み、集合場所の高千穂峡第3駐車場まで戻って解散となりました。原田先生の貴重な話を拝聴しながら、多くの地衣を観察できる機会をいただきました。参 加していただいた皆様と原田先生に深くお礼申し上げます。

* * *

参考

宮崎の国定公園・県立自然公園 | みやざきの環境

https://eco.pref.miyazaki.lg.jp/nature_environment/national_park/

高千穂峡 | 観光スポット | 宮崎県公式観光サイト「みやざき観光ナビ」

<https://www.kanko-miyazaki.jp/spot/1001>

林智洋(2006):宮崎県高千穂、日之影町付近の地質巡検会、熊

本地学会誌(143)11-15

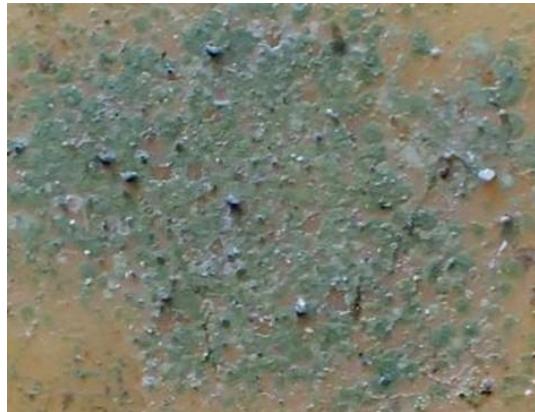


図2. ツツジノチャサジゴケ(?)。
キャンピリディアが見られた。



図3. 石垣上の地衣の観察。



図4. ツブイボゴケ。

日本地衣学会第 24 回大会および第 46 回青空地衣教室に参加して

My Impressions on the 24th Annual Meeting of JSL and the 46th Outdoor School on Lichens / by MAESAKI Kazuki

>>>>> 前崎 一姫：九州医療科学大学 薬学部薬学科 衛生薬学講座 5 年

私は今年の 2 月から地衣類の研究に携わることになりました。その時に初めて地衣類という生物の存在を知りました。研究を始めた当初は、地衣類の形態や特徴について深く理解しておらず、HPLC を用いて成分のピークを読み取ることだけに集中していました。そして、クロマトグラムのパターンさえ一致すれば同定できるだろうという安易な考え方で、形態観察をほとんど意識することなく学名同定を進めていました。そのような中で、日本地衣学会第 24 回大会および第 46 回青空地衣教室に参加することができたことは、私にとって大きな転機となりました。大会では、国内外の研究者が発表する内容を通して、地衣類の分類学・生態学・化学分析など、多様なアプローチがどのように連携して研究を進めているのかを具体的に学ぶことができました。特に、形態だけでは識別が難しいグループに対して、化学分析や分子系統解析を組み合わせて同定精度を向上させる研究発表は、私の研究方法を見直すきっかけとなりました。これまで私は HPLC のピークにしか注目していませんでしたが、それは地衣類研究における視点の一部でしかないということに気付きました。地衣類の理解には、顕微鏡での観察や野外での生

育環境の把握など、複数のアプローチが欠かせないとということを強く実感しました。加えて、青空地衣教室では、実際にフィールドに出て地衣類を観察する貴重な体験ができました。その場で地衣類の形態的特徴を詳しく説明していただき、地衣類への理解が一段と深まりました。特に、私がこれまで分析していた試料と同じ属の地衣を実際に観察できたことは、研究で扱っている対象が“実際に生きている生物”であることを改めて実感させてくれる体験でした。

今回の大会と青空地衣教室への参加を通して、私は自分の研究スタイルを根本から見直す必要があると感じました。化学分析だけでなく、形態観察や生育環境の理解も取り入れ、複数の視点をもって研究に取り組むことで、より正確で説得力のある同定ができるようになると感じています。また、地衣類研究の奥深さを知ったことで、自分がこの分野についてまだ知らないことが非常に多いことにも気づき、学び続けることの大切さを強く実感しました。今後は、大会で得た知識や、青空地衣教室での経験を日々の研究に活かしながら、地衣類に対する理解をさらに深めていきたいです。

第 46 回青空地衣教室に参加して

My Impression for the 46th Outdoor School on Lichens / by NAKAYAMA Kotaro

>>>>> 中山 虎汰郎：久留米工業高等専門学校 専攻科 物質工学専攻 2 年

この度、高千穂峡で行われた青空地衣教室に参加させて頂きました。久留米高専専攻科 2 年の中山と申し

ます。今回が初めての参加であったため、どのようなお話を伺えるのか非常に楽しみにしておりました。

私は高専で地衣の遺伝子について研究していますが、分類については知識が十分ではありませんでした。しかし、原田先生の解説は初学者にも非常に分かりやすく、終始楽しみながら観察をさせていただきました。

開催地の高千穂峡では、水辺、樹上、岩上など至るところに地衣が見られ、ヒメレンゲゴケ、イワニクイボゴケなどの多種多様な地衣を観察することができました。同じ樹上でも高さによって生育する地衣が異なっていた点が、個人的に特に印象に残っています。

また、一見すると同じように見える地衣でも、ルーペを通して観察することで違いがわかることもありました。レプラゴケのように種同定の難しい地衣が存在することも知り、地衣分類の奥深さを強く感じました。

最後になりますが、地衣観察の素晴らしい場を提供してくださった甲斐先生をはじめとする今大会運営の皆様方、ならびに解説をしていただいた原田先生に深く感謝申し上げます。後またご機会があれば、ぜひ参加させていただきます。

お知らせ News and Announcements

ニュースレター編集委員会からのお知らせ

From Editorial Board of the JSL Newsletter / by BANDO Makoto

>>>>> 坂東 誠：ニュースレター編集委員長

会務報告記事の掲載順序についてのお知らせ

ニュースレターの会務報告記事は、できる限り、その報告内容が早く実施されたものから順番に掲載するのが望ましいのですが、2025年8月下旬から2026年1月上旬にかけて日本地衣学会の会長選挙・評議員選挙・観察会・評議員会・総会・大会・青空地衣教室・新会長就任・新役員就任・新評議員就任・事務局移転

などが集中して行われたため、これらに関する会務報告記事の作成は現在、報告内容が早く実施された順番通りに進んでおりません。そのため、これらに関する会務報告記事のニュースレター掲載順序の一部が、報告内容が早く実施された順番通りでなくなる見込みです。読者にはご不便をおかけしますが、予めご了承いただけますようお願ひいたします。

◆原稿募集

本誌は、会員からの原稿を隨時募集しています。地衣類にまつわるエピソード、想い出、あるいは地衣類に関する写真とタイトル、簡単な説明文だけでも受け付けます。電子メールにて次のアドレス宛に投稿御願いします：

bandomakoto@aa6.mopera.ne.jp (坂東 誠)

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体からの許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会。

Tel: 03-3475-5618. Fax: 03-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization which has been delegated for copyright for clearance by the Japanese Society for Lichenology.

Except in the U.S.A.: Japan Academic Association for Copyright Clearance (JAACC).

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo 107-0052
Japan. Tel: 81-3-3475-5618. Fax: 81-3-3475-5619.
E-mail: naka-atsu@muj.biglobe.ne.jp

In the U.S.A.: Copyright Clearance Center, Inc.
222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923 USA.
Phone: (978) 750-8400. Fax: (978) 750-4744

● *Newsletter from the Japanese Society for Lichenology*,
no. 188, pp. 753 - 776; eds. Bando M., Kawasaki E.,
Tanaka K., Ueda N., published by the Japanese Society
for Lichenology, 30 Jan. 2026.

日本地衣学会ニュースレター188号

発行日：2026年1月30日

編集： 坂東誠・河崎衣美・田中慶太・上田菜央
発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城中野字街道端西241-438
秋田県立大学 生物資源科学部 生物生産科学科
植物資源創成システム研究室

©2026日本地衣学会 (© 2026 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。